

令和4年度第2回半田市図書館協議会議事録

開催日時	令和5年2月17日(金)	14時00分～15時30分
開催場所	半田市立図書館 第1会議室	
会議次第	1. 開会 2. 挨拶 3. 議題 ・報告事項 (1) 令和4年度図書館利用状況等について (2) 令和5年度予算及び事業予定について (3) 第2次半田市子ども読書活動推進計画 各取組評価について 4. その他	
出席委員	出席委員 (会長) 間瀬進 (副会長) 鈴木恒夫 (委員) 北中美郷、石川哲也、岩本行雄、大橋雅美、市野裕子、大橋美哉、新美陽美、(松岡登久子) ※敬称略	
教育部	教育部長 岩橋平武	
事務局	図書館長 山下由美、主査 竹内由香、主事 永田知丈、主事 太田絢香	
次 第	議事概要	
1. 開会		
2. 挨拶 (教育部長)	(教育部長) 先日読んだ本で、『教育の受益者は、実際に教育を受ける子供たち本人ではなく、その教育を受けた子供たちが10年20年後に還元する社会である』、という記述があった。図書館は教育施設であり、魅力あるサービスを提供し、図書館に通って来てくれた人たちが数年後社会に還元してくれたり、また、温かい心を持った子供たちになるような、そういった図書館でありたいと思っている。	
3. 議題	報告事項 (1) 令和4年度図書館利用状況等について 事務局から説明。 (委員) 利用状況に記載のある記録は、貸出者数始めコロナ禍の時期のもので、それ以前例えば令和元年度の実績値も記載してほしい。 (事務局) コロナ以前とコロナ禍とでの比較が必要になると思うので、来年度以降は令和元年度分から作表する。 (会長) 貸出券の登録者数のカウントは、亀崎在住の者が本館で登録をすれば、本館での登録にカウントされるのか？	

(事務局)

そのとおり。本館登録者数は半田西部在住の人が多く、亀崎図書館登録者は、亀崎在住の人が多い。

(会長)

亀崎図書館では高齢者の登録が多いのか？

(事務局)

本館と比較すると、高齢者もそうだが、若い親子連れの登録が多いように見受けられる。

(会長)

亀崎図書館には大活字本が配架されているので、高齢者の利用が多いと思うがどうか？

(事務局)

亀崎図書館の利用については、高齢者の貸出券登録者数は多いが、実際は若い子連れの夫婦の利用が多いように見受けられる。なお、亀崎・乙川地区は他地区と比較すると、高齢者の人口割合は多いように見受けられる。

(副会長)

図書館と博物館は共同で運営していると思うが、入館者数について、博物館の入館者数が減ると、図書館の方も減ってしまうか？

(事務局)

本館でいうと、入館者数については、図書館博物館各々の入口のところにカウンターがあり、施設玄関のところでは、入館者数のカウントはしていない。博物館の催し物とは直接強い影響はないと思われる。

(副会長)

貸出券登録者数について、市外在住者が多いように思うが、半田市立図書館の蔵書が影響しているのか？

(事務局)

半田市の蔵書数や資料の種類などが影響していると思われる。常滑市は図書館がなくなってしまったため、半田市で貸出券登録をする市民が多い。また、知多市では、英語の多読セットを配架しているが文庫を購入しておらず、大府市では雑誌を多く購入している。各図書館の蔵書や資料の傾向に応じ、自分のニーズに合った図書館に出かける住民が多いと思われる。

(会長)

知多半島内では、本を借りるときに各図書館で貸出券登録をすると、知多半島内の全図書館で貸し出し受付ができるか？

(事務局)

借りたい本のある図書館で、その都度貸出券登録の必要はあるが、知多半島内では、他市町の住民が、本の貸し出し受付をすることができる。

(2) 令和5年度予算及び事業予定について
事務局から説明。

(会長)

令和4年度の事業実績と令和5年度の事業予定とで、亀崎図書館での高齢者向け事業の数に差があるが、記載のない事業は好評ではなかったということか？

(事務局)

音読教室と折り紙は定例のもので、健康教室については日程調整が必要のため記載をしていな

い。音読教室（駅前はうす「平成くらぶ」）は、先方からの申し出に応じて行った事業である。本館でも同様だが、申し出があれば事業実績として記載する。令和5年度は現時点では申し出がないため、掲載していない。申し出があれば事業を実施していきたいと思っている。

（図書館長）

補足として、亀崎図書館では音読教室が定例化している。高齢者施設へのお届け便や読み聞かせも、市内全域で希望のある施設で行っている。昨年度実績の中に記載されている亀崎福祉センターでの読み聞かせも先日行って好評だったので、令和5年度も行いたいと思っている。成岩・半田方面では、現時点では希望されることなく、今後高齢介護課に情報提供をしながら、事業を広げていきたいと思っている。亀崎図書館に限らず、本館も要望があれば出かけていく。また、よい提案があれば本館の行事としても考えていきたいと思っているので、ご意見をいただきたい。

（副会長）

全国の図書館と、本の貸し借りは行っているか？

（事務局）

当館に無い本を読みたいとの申し出があれば、他の図書館から借りて提供している。今年度実績はまだ集計していないが、昨年度は、他の図書館から1,793冊借り、当市からも732冊貸し出している。

（会長）

本の福袋は一袋当たり何冊か？また、どのようなテーマか？

（事務局）

今年は3冊程度。テーマは、例えば動物や食べ物等。

（会長）

本館で142名ということは142袋ということか？

（事務局）

そのとおり。

（3）第2次子ども読書活動推進計画 各取組評価について

事務局から説明。

（委員）

貸出文庫の開設日時が、各公民館で異なるのはなぜか？

（事務局）

各団体の活動状況によるため。例えば、団体が1日しかやらないと言えば、そうなる。

（会長）

前回、予算のことで、小学校の図書室にある本の損傷がひどく、小学校への図書購入の予算増額を頼みたい、という意見があったが、どのような見通しか？

（教育部長）

増額はできなかった。電子図書で対応したいと思っているが、改めて強く申請をしていきたいと考えている。

（委員）

貸出文庫の開催日の少なさもそうだが、ボランティアが減少している実情で、活動してくれる人を増やすような努力や案を考えていただきたい。

（会長）

予算をつけることで対応は可能か？

(委員)

対応はできない。貸出文庫についても、ボランティア団体が実施しているところと、公民館職員が実施しているところがあり、各々貸出日も異なっている。公民館職員は仕事で行っているが、ボランティア団体はボランティアの気持ちありきで行っている。地域の大人たちに貸出文庫のことを知ってもらいボランティアに参加してもらえるように広報などで周知していただくと大変ありがたい。ボランティア団体の会費では募集チラシの作成にも限度があり、連絡先もなく、個人名を連絡先として出すのは難しいので、こういうところについても行政に協力していただけるとありがたい。まず、半田市内で行っている貸出文庫 7 か所のうち 4 か所でボランティア団体が行っていることを住民に知っていただけるように、協力をお願いしたい。

(委員)

そういうボランティア団体がある、スタッフを募集している、ということをはんだ市報に掲載することはできないか？

(委員)

市報には一般のグループの広報掲載ができない。本日、皆さんには貸出文庫のことを知っていただけなので、こういう活動をしているところがあることを広く周知していただけると助かる。小学校でもチラシを配布するなど、できる範囲での広報活動は行っているが、スタッフ募集の周知は難しく、広めてほしい。

(委員)

文音会では、ボランティア養成講座のおかげで、毎年 3 人くらい加入してくれるが、高齢などの理由で辞める人も多い。また、時間の都合などで参加ができなかったり、仕事を休んで活動してもらったりしているような状況。解決方法の一つとして、図書館の開館時間が少し早くなることで、活動できるボランティアもでてくるのでは。また、広報の掲載についての話が出たが、そもそもボランティアに関心がなければ、広報で目にして参加しようとは考えないと思う。小学校での福祉の授業の内容に、点字講座や盲導犬の話に音訳の話を加えると、幼いうちから音訳者のことを知ることができ、将来、音訳の仕事に興味を持つ人が増え、現状が改善されるのではないかと思う。他に、音訳作業に使う機器の交換、館内防音室の防音機能の強化及び障がい者が来館しやすいようなバリアフリー設備の導入を検討していただきたい。

(教育部長)

すぐにいい返事ができるものではないが、必ず各関係部署に伝える。

(委員)

市内各中学校の 3 年生が、毎年市バスで市内の施設を巡回している。博物館と同一施設内なので、博物館と相談のうえ、巡回対象に図書館を追加することはできないか。実現は困難かと思うが、個人的には図書館も見学させてもらえるとありがたいと思っている。

(事務局)

過去、巡回対象の施設は図書館だったが、指導要領の変更により、見学対象から図書館が外れている。時間を作っていただけるなら、図書館側は館内の案内をする。

(委員)

15 分ぐらいの見学プログラムを作ってくるとありがたい。既にカリキュラムが決定している中で新しいものをやりたいと思えるような環境を作ることは難しいが、こういうものがある、というものを示していただけるとありがたい。例えば、昨年の夏に開催していただいた図書館担当の教員の研修会で、POP 作りをやっていただき、担当職員が感激していた。その後、図書委員の児童向けに出前講座をしていただき、できた POP は、保護者からも大変好評であった。

4. その他

4. その他

(会長)

議題以外で、図書館への要望など、その他意見はあるか。

(委員)

巡回図書の中に、学校の予算で購入できない資料を入れてもらいたい。電子図書館も大変ありがたいが期待しているが、子供のタブレットでは画面の大きさが限られていて画像も荒く、やはり本物にはかなわないし、また、立体本のような面白さもない。そういうものを巡回図書に加えていただくと、子供たちが興味を持って図書館に行ってくれると思う。あと、さくら小学校は図書館から遠く、子供の足で図書館まで行くのは難しく、例えば夏だけでも図書館直行のバスなどを出していただくとありがたい。

(委員)

話題になった本を多く購入しても、ブームが過ぎてしまえば読まれなくなってしまうのではないと思う。また、よく図書館を利用している高齢者の希望を積極的に取り入れるのもいいが、一番本を読まない年代の人が興味を持つようないわゆるヤングアダルトの本が充実していないのではないと思う。ベストセラー本に偏らないでほしいということと、あと、一度読んだ本の図書館への寄贈を受け付けてはどうかと思う。

(事務局)

来館者が利用する開架、本の倉庫の閉架双方とも現在飽和状態で、本を持ってきていただいても活用ができないため、それはできない。リサイクル本として自由に持って行ってもらえるようにして図書館に置いてほしい、という話もあるが、その本を持ち去って転売してしまう人もいる。せっかくの好意も心無い人のためになってしまうのは如何か、ということで、本の寄贈については、半田市に関係するものに限定している。

(委員)

本の修繕は予算や事業に全く関係ないことかもしれないが、一生懸命活動してきれいに修繕している。その実績を欄外でも構わないのでこういった資料に掲載してもらえないか。

(事務局)

そのことについては、図書館概要の、図書館の事業支援をしている団体一覧に活動内容も含めて掲載をしている。本はすぐに傷んでしまうので、図書館として大変助かっている。

(委員)

貸出文庫の本が紛失したことは把握できるか。

(事務局)

貸出文庫の本の紛失については、各公民館・団体で棚卸をしない限り把握できないと思う。毎年1度、新しく購入した本を持って各施設を訪問しているが、置かれている本をリストで逐一チェックしているわけではなく、各文庫で本が紛失しても、現状ではそれを把握することはできない。

(委員)

貸出文庫を、もっと開放していきたいと思っているが、どうか。

(事務局)

それについては、例えば、上池公民館の運用方式でいうと、ロビーに本を置き、借りたい人は、公民館職員がいるときは申請で、不在のときは、貸し出しと返却の際に、ノートに記入する方式をとっている。参考にしていただければと思う。この方式だと日時に縛られず本を利用できる利点はあるが、欠点として、紛失がわからない、という点がある。貸出文庫の運用方式については、設置元がどこに重きを置き、どのように住民に本を提供していきたいか、の考え方によると思う。

(会長)

時間が来たので、以上で第 2 回半田市図書館協議会を終了する。

(会議終了 午後 3 時 30 分)